

リリースメッセージ

金星を通して温暖化を思う

地球温暖化防止活動推進員 元島 巖(高森町)

「地球温暖化が進行すると大変なことになると本当かなあ?実際にそうなるか?実際に分らないことだし。」と、思っている人が、世の中には以外に多いかも知れません。しかし、現実には温暖化が顕著になっている場所があります。それは、地球のすぐ隣の金星です。かつて、アメリカや旧ソ連の宇宙探査機が観測した結果によると、金星はCO₂の分厚い雲に覆われ、太陽熱をため込んで表面温度が四五十℃前後、鉛も溶ける灼熱地獄であるとのこと。むしろ、金星の温暖化と、現在の地球の温暖化の進行とは発生原因が異なりますが、CO₂の温室効果による温暖化の進行であるというシステムは同じです。温暖化が進行したらどんな恐ろしいことになるか、金星は我が身をもつて、地球に住む私達に警告してくれているのです。こんな身近な星の実例を知りながら、みすみす地球を住みにくくしてしまうのは、愚かなことです。私には、可愛い孫達が居ます。将来孫達に



写真提供 奥村茂実氏(喬木村)

国では、住宅に太陽光発電システムを設置する方を対象に、予算総額九十億円、約三万五千件(平成二十年補正予算)の補助金を交付することにしました。長野県においても、地球温暖化防止、新エネルギーの普及拡大のため、この事業を広く周知しています。○募集期限 平成二十一年三月三十一日(火) ○補助金額 対象システムを構成する太陽電池モジュールの公称最大出力

お知らせ

住宅用太陽光発電導入支援対策費補助金について

「暑くて生きていけないよ。おじいちゃん達助けて。」と悲鳴を上げさせるのか、「おじいちゃん達が頑張ってくれたおかげで、僕達は、住みやすい地球で生活できる。ありがとう。」と感謝されるか、今の我々の取り組みにかかっていると思

います。ほんの一寸したことでも、皆で実行すれば大きな力になります。一人でも多くの人がその働きかけをしていくことが、地球温暖化防止活動推進員の使命とします。皆さん、力を合わせて頑張りましょう。

一kW当たり七万円 対象システムは、最大出力が十kW未満で且つシステム価格が一kW当たり七十万円以下です。で、例えば三・五kWのシステムの場合、二百四十五万円のシステム価格に対して、二十四万五千円の補助となります。(この他、市町村によっては、上乗せの助成制度を実施している場合もありますので、お住まいの市町村担当課までお問合せください。)

この補助制度を執行する「太陽光発電普及センター」のホームページによると、二月末現在で、約一万件の申請が受理されています。詳しくは、同センターのホームページを御覧いただくか、下

伊那地方事務所環境課までお問合せください。

「廃棄物の適正な処理の確保に関する条例」三月一日施行

長野県では、産業廃棄物の適正な処理に関する規則、廃棄物処理施設の手続き、その他必要な事項を定め、廃棄物の適正な処理を確保し、県民の皆さんの生活環境を保全することを目的として平成二十年三月二十四日にこの条例を公布し、平成二十一年三月一日から施行しました。

この条例においては、産業廃棄物処理業や処理施設の設置許可申請などに先立ち、事業計画者と関係住民等が開かれた場において十分なコミュニケーションを行い、その過程を通じて事業計画をより良いものとし、関係住民の皆さんとの合意形成を図る手続き(事業計画協議)を定めたほか、土地所有者、排出事業者、工事発注者・受注者等にもそれぞれの立場に応じ

編集後記

事業者、消費者(関係団体)及び行政が連携して去る十月一日に打ち上げられた「レジ袋削減」衛星は、具体的なテーマに三者一丸となったパワフルな取り組みで軌道に乗り、有料化という大きな推進力を得て更に加速し始めました。この衛星が地球温暖化防止の牽引役となることを願っています。

一方、「レジ袋削減」と平行して取組む新たなテーマの発掘が期待されています。環境関係推進員等が情報を発信し、多くの人たちが共通の認識を持つことにより、新たなテーマが発掘されることと思います。推進員等の情報発信の場であるこの通信は、環境保全のヒントやテーマの宝庫です。この通信がその使命を持続していくため、引き続き、多くの皆様の御支援と御協力をお願いいたします。

レジ袋有料化から一ヶ月 有料化を契機に、辞退率は一気に上昇

登録店舗は116店舗 うち100店舗で廃止又は有料化に

南信州地域の事業者・消費者(関係団体)・行政で組織する「南信州レジ袋削減推進協議会(今村良子会長)」が推し進めてきた「レジ袋削減の取組」は、平成二十一年二月一日から、多くの登録店舗で廃止又は有料化(無料配布中止)に踏み切ったことを契機に、辞退率が一気に上昇した。協議会では、三月における各店舗の辞退率を集約することにしてはいるが、早くも目標の八十パーセントに到達している様子の店舗もあり、目標の達成に期待を膨らませている。

レジ袋有料化から一ヶ月、協議会事務局では、一部の店舗に現在の様子などをうかがった。

みなみ信州農業協同組合 飯田下伊那地域の全ても市町村に店舗を構えるJAみなみ信州では、食料品売り場だけでなく、農業産物売り場まで、系列四十四店舗でレジ袋削減に取組み、組合員三万人にも協力を呼び掛けている。

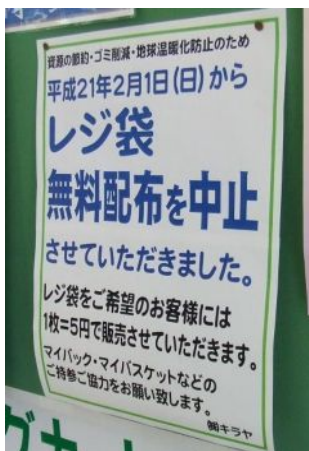


松澤組織広報課長は「取組みを始めるにあたって色々な不安材

料もあつたが、周知のかがあつてかマイバックを持参する人が増え、取組を始めて良かったと思う。地域全体で取組む効果の大きさ、五円の影響の大きさを実感した。全店舗の集計はまだ出ていないが、既に目標の八十%は達成できているのではないかと思う。」と目標達成に自信をうかがわせた。

株式会社 キラヤ 飯田市を中心に十一店舗を構えるキラヤでは、約二十年前からレジ袋削減に取組み始めている。昨年七月には、有料化

今回の今村さんの受賞により、環境保全に携わる人達に光が当てられ、活動の輪が広がって行くものと期待される。



意見をいただくことがあつたが、当たり前の感覚のお客様が大勢を占め、好意的に受け止めていただいた。この二十年を振り返ると、企業だけの取組では理解がなかなか進まない中、協議会としての取組で、消費者、行政とうまく連携ができ、マスコミにも好意的に随所で取り上げていただいたお陰で、順調にいった。この経過を振り返った。

今村良子会長 特別賞受賞

南信州地域づくり大賞「くらし・環境部門」

二月二十日、下伊那地方事務所が企画した「南信州地域づくり大賞」の表彰式が行われ、レジ袋削減活動に精力的に取り組んでいる南信州レジ袋削減推進協議会会長の今村良子さんが、「くらし・環境部門」で特別賞(峰竜大賞)を受賞した。今村さんは、NPO法人グリーンクラブいっただ

花畑の崩壊

自然保護レンジャー 福沢修一（松川町）

日本中の高山帯での花畑の縮小が問題となつていきます。地元の荒川三山には南アルプス最大のお花畑がありますが、ここ十年位で登山道が荒れて花畑が縮小しています。主な原因は登山者（写真撮影）の踏み荒らしに

よって、昔は人ひとりが歩ける程度の登山道であったものが、近年の登山者の増加で、今は二人位が普通に歩ける広さになってしまったことです。そのため、雨が降ると登山道が川になって土を流してしまいます。



南アルプス 荒川三山のお花畑

登山道の谷側は石が崩れ落ち、花畑にだけ落ちて花を押しつぶしています。

私が初めて荒川三山の花畑を訪れた二十年以上前の花の数を100%とすれば、今は残念ながら70%位になってしまいました。

今すぐにも対処しないと花畑は更に荒れて、花畑とは言えないような場所になってしまおうと思います。しかしながら、この土地は、ある民間企業の私有地ですので、最

終的には企業にお願いするしかありません。登山口の投書箱には毎年投函していますが、全く改善されていません。

せめてこれ以上登山道が広くならないように、丸太で木道にして土砂の流出を止めなくてはなりません。

これほど広く、花の種類が多い花畑は、日本が誇る場所だと思います。緊急に対策をしないでいかならないことだと切実に思っています。

将来を見据えての一員として

環境ウォッチャー 蜂谷睦雄（高森町）

「おじいちゃん、又あるに。」怒りを込めた孫の声。家の前の広大な駐車場に不法投棄が毎日である。時にはフェンスを越えて我が家の宅地内に。

「ポイ捨ては環境破壊よくないね」「ポイポイポイ ゴミのポイ捨てやめましょう」今年も自然愛護会で募集した小学生達の「環境改善標語」

が、公民館のロビーを飾っている。昔は、「ご掻き」（かき）きや薪採り（たきぎとり）により里山の自然は守られ、多くの樹種や昆虫、野鳥、動物、菌糸植物などの良い棲家（すみか）となっていた。道路の舗装、河川の近代的改修、森林及び農地の放置等は、結果として



平成20年度植樹祭風景（写真提供：高森町役場）

大きなしっぺ返しとなつて我々を痛め付けている。里山の再生に地域住民と自然愛護会が立ち上がり、高低木など九種類を小学生と共に植樹した。

また、町有地内にある湿地帯やザゼンソウ群生地保護育成を十八年度より実施している。

小中学生と保護者達に呼びかけ、自然観察教室や、蛍の生息環境づくり、幼虫の飼育を行なっている。私は老人の会などで環境保護の必要性を説き、

啓発活動にも取り組んでいる。地域が主体的に取り組んでいることに、アレチウリの駆除、河川や道路の清掃美化活動がある。町が主体となって実施している毎年の植樹祭もある。

これらの活動を通し、自然環境の改善や保護育成への関心が高まることを期待している。

（※蜂谷さんは、地球温暖化防止活動推進員としても御活躍されています。）

郷土の自然を美しく豊かに

希少野生動物保護監視員 下枝一雄（飯田市）

自然保護の任を頂いて日も浅く、また、動植物の専門知識など全く有りませんが、山に登って感じてきたことなどを書かせていただきます。

私の家の近くには山腹一帯に群生するツツジ、数十種類にも及ぶ山野草が咲く里山があります。この山の魅力に惹かれて山登りの折に、鋸や鎌



眠りから目覚めたユウスゲ

で下草刈りなどをしながら登ることがあります。藪刈をした所からは眠っていた野草があらわらちから芽を出し、花を咲かせてくれます。年毎に増えていく様子に張り合いを感じます。

最近では、登山仲間も手伝ってくれますが、残念なこともあります。ササユリ、トリカブト

などが盗掘されることなどです。

登山道脇のササユリを持ち去られてしまったり、藪刈跡から芽を出したトリカブトの群生がすっかり無くなってしまったりしたこともあります。

山頂の野草が殆ど無意識に踏みつけられてしまった所なども時々見かけます。自分の庭の木や草花なら大切にするのでしようが、野草に対する

意識はあまり無いように感じます。

野草は野に在って美しく、私たちに感動と安らぎを与えてくれます。自然はそこに生息する全ての生物の命を育む所で、人間も生物の一員であり、特殊な存在ではないようです。命の源である自然に感謝しながら、これからも環境づくりにも少しでも貢献できればと思っております。

100%ゴミをなくすことから

不法投棄監視連絡員 下沢和巧（松川町）

私が監視をしている林道などは、コンビニ弁当、空カン、ペットボトルなどが多く捨てられています。そこに来た人は、ゴミが捨てられていることで気がゆるみ、捨てて行ってしまうのです。

一つのゴミが、ポイ捨ての繰り返しによってゴミの山となってしまうのです。

また、林道からそれた道にも、ビニールや菓子の袋などが捨ててあった

りして、不快な気持ちになってしまいます。

私は林業に従事しているため、仕事で山に入ったりすると、空カンや弁当のかすなどが落ちていくのをよく見かけます。昔は、時々ゴミを拾ったりしていましたが、監視員をやっている今は、常にゴミ袋を持って行き、不法投棄されているゴミを持ち帰るように努力しています。

また、一緒に作業して

いる仲間にもゴミを持ち帰っていただくよう声をかけています。

県外から紅葉を見に来て空カンや、ペットボトルなどを捨てて行く方もいますので、看板の設置

などをして、不法投棄がなくなれば良いと思います。

一つのゴミをなくすことで、より良い環境になるのではないかと思います。

地球温暖化防止について今思うこと

地球温暖化防止活動推進員 井口潤子（飯田市）

昨年から景気後退、金融危機と人々の不安をかきたてるような負の言葉が聞かれます。

この不景気の中で、「環境を良くするための投資」についてどれだけの理解が得られるでしょうか。

私自身、木質ペレット製造業に従事し、地球温暖化防止活動推進員として、この課題について、周囲の人々の思いに深く考えさせられたり、感嘆のため息をついたりすることも多々あります。

ある民間企業が、ペレットを温泉給湯に利用してくださっているのですが、昨年十二月、灯油価格が値下げに転じ、経済

的なメリットだけで考えれば灯油使用に切り替えても不思議ではなくなりましたが、一向に灯油に切り替える向きのお話がありませんでした。民間企業なら真っ先に考えるはずと予想していたのに、数週間が経過しても、ペレットの発注が続きませんでした。私は不思議に思い、ペレットから灯油に切り替えない理由を尋ねてみました。

その答えは「環境のためにしているから。これは将来の自然環境への投資なんです。」というものでした。私は、信念の環境投資に頭が下がりました。